

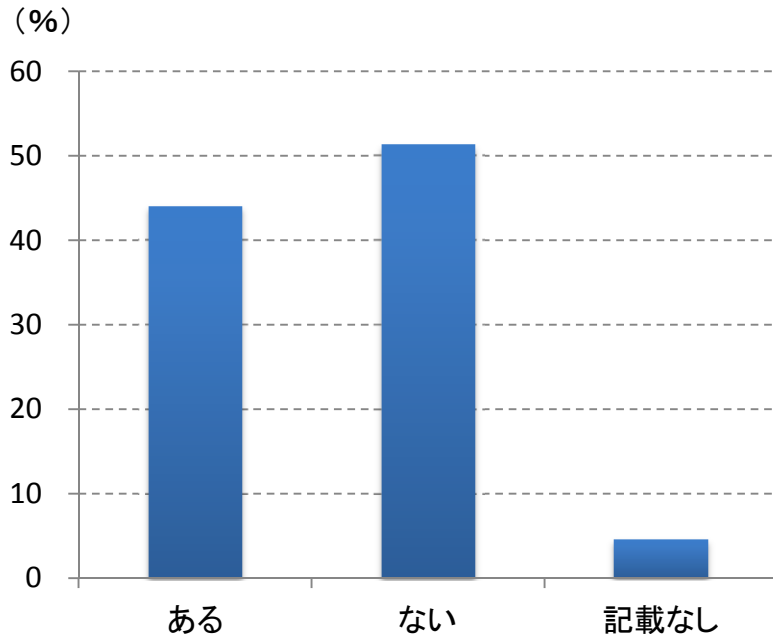
# 医師少数区域に勤務した経験を有する 医師への評価について

# 医師少数区域に勤務した経験を有する医師への評価

平成28年12月に全国の医師約10万人を対象に実施した「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」結果によれば、多くの医師、特に若手は、潜在的には地方勤務に魅力を感じている。

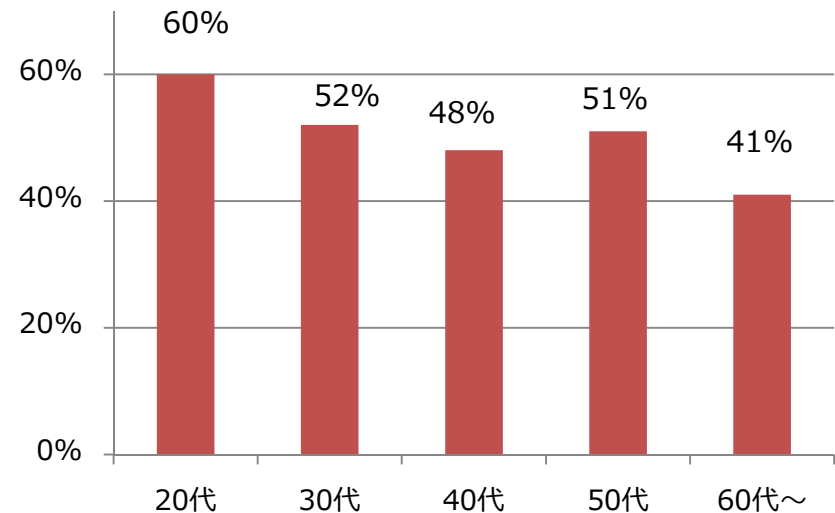
## 東京都23区及び政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外で勤務する意思

○ 医師の44%が、今後、地方（東京都23区及び政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外）で勤務する意思がある。



○ 地方で勤務する意思があると答えた者を、年代別に見た場合、20代が60%と多い。

※別の調査結果によれば、地方勤務の期間の希望は、20代は2～4年が多いが、30代以上は10年以上が多い。



# 医師少数区域に勤務した経験を有する医師への評価

## 見直しの方向性（案）

- 今般、医師偏在対策を議論するに当たっては、規制的手法のみならず、医師がモチベーションを持って地方（医師少数区域）で働くことができるよう、インセンティブを与える仕組みを検討する必要。
- その結果、地方（医師少数区域）で働く医師が増加し、こうした医師が生涯を通じて、地域の医師偏在解消の中核となり活躍する体制を整備することは、全国での医師偏在解消につながる。
- こうしたことを踏まえ、具体的には、以下の仕組みを検討してはどうか。
  - （1）医師少数区域において一定期間以上の勤務経験を有する医師を厚生労働省が認定すること
  - （2）（1）の仕組みを活用して、認定を受けた医師（認定医師）のモチベーションを上げる以下のような仕組みが考えられないか。
    - ①「認定医師であること」を広告できる事項とすること
    - ②地域医療支援病院等一定の病院の管理者としての認定医師の評価
    - ③その他普及に向けたインセンティブ

## <見直しのイメージ>

